

## 職場の風通しを良くし しっかりコミュニケーションを！



おがわ としあき  
小川 俊昭\*

### 1. はじめに

私は、昭和62年1月に国鉄から県庁に入り（研修職員）、63年4月に正式採用、本庁19年、出先15年、計34年間にわたり一般土木行政のみならず主に都市計画および交通行政に携わってきた。

令和元年度をもって一旦福井県庁を定年退職したものの、令和2年度も引き続き任期付き採用として再登板することとなり、土木部長を最後に令和3年3月末に退職し、地方公務員生活を終えた。

このような異色の経歴をもつ私に本誌への執筆依頼があり一瞬躊躇したが、これまでの経験を振り返り皆様の今後の業務に少しでも役立てていただければ幸いと思い、お伝えしたいことを記すこととした。

### 2. 思い出に残る仕事

34年間14の職場においてそれぞれ印象深い仕事ばかりであったが、誌面の関係もあるため4つに絞り、その時々の仕事への取り組み姿勢等についてご紹介したい。

#### 1) 平成16年福井豪雨

平成16年7月18日、一級河川足羽川の流域を見舞った「福井豪雨」は、福井市他2市3町を中心に死者4人、行方不明1人、重軽傷者19人、床上浸水4,052世帯、床下浸水9,675世帯という未曾有の被害をもたらした。

当時私は、福井土木事務所地域整備第2課福井南グループリーダーとして足羽川支流一乗谷川流域の災害現場を担当した。18日未明からの局地的集中豪雨（最大時間雨量71mm、最大日降雨量338mm）により堤防決壊、土砂崩れ等壊滅的な被害を受けた。このため県では各地区に現地災害対策本部を設け直

ちに被災地の復旧作業に着手した。私は、一乗地区の副本部長として2週間余り市職員および地区住民と一緒に現地本部に張り付き、連日早朝より夜遅くまでワンチームとなって復旧作業を指揮した。



写真-1 福井豪雨被災状況（福井市安波賀町）  
写真提供：福井豪雨映像アーカイブス作成委員会

#### 【現場指揮に当たって心掛けていたこと】

- (1) 災害現場ゆえに自らが元気を前面に出し、住民に勇気と希望を与える。「お疲れ様です」「一緒に頑張りましょう」等、積極的な声掛けをする。
  - (2) 住民の声を丁寧に聴き、先ずはできるところから実行。双方向でコミュニケーションをとる。
  - (3) 復旧作業では、県・市の管理区域や土木・農林等の所管区域の垣根を取り払い迅速に対応する。
  - (4) 作業の進捗状況等を毎日地区役員に説明し、見える化・共有化することで安心感を与える。
- 以上のような対応をしたことで、地区住民から大変喜ばれ信頼関係も築くことができたため、その後の河川・砂防事業等の災害復旧事業実施時には、用地交渉や工事を円滑に進めることができ、結果的に早期の本格復旧に繋がった。

#### 2) 福井駅付近連続立体交差事業

県庁生活で12年間は福井駅付近連続立体交差事業（以下「連立事業」）や密接に関連する福井駅周

\* 福井県並行在来線準備株式会社 代表取締役社長（前福井県 土木部長）

辺土地区画整理事業（以下「区画整理事業」）等まちづくりに係わってきた。

連立事業は、福井駅を中心にJR北陸線（以下「JR線」）と前身の京福電鉄（現えちぜん鉄道、以下「えち鉄」）を高架化し、踏切除却や交差道路等の整備を行うことで東西交通の円滑化を図るものである。〔県施行、平成3～31年、総事業費約686億円〕

また、同時施行の区画整理事業により駅前広場の拡張整備等を行い交通結節機能強化および市街地の一体化を図るものである。

〔市施行、平成4～30年、総事業費約436億円〕

両事業は、合わせて1,000億円をゆうに超えるビックプロジェクトとして県民の注目の的となっていた。また、本県の連立事業は北陸新幹線と密接に関連しながら様々な課題を乗り越えてきたが、最大の課題は高架化方式の度重なる変更にあった。

### 【高架化方式の変遷】

#### (1) 当初の二重高架方式（昭和63年頃）

北陸新幹線がまもなく着工されるとの期待の中で、JR線と新幹線を二重高架・一体構造とし、京福線は単独高架方式で進める。

#### (2) 見直し後の二重高架方式（平成3年頃）

北陸新幹線の着工見通しが立たず在来線の高架化（まちづくり）が遅れるため、新幹線を待たずにJR線高架を先行し、新幹線と京福線を二重高架・独立構造とする方針に変更。平成8年に起工式が行われ、9年の歳月を経て平成17年4月にJR線の高架が完成・開業となった。

#### (3) 新幹線整備に伴う高架方式（平成17年～24年頃）

JR線高架工事の完成が迫ってきた平成16年頃、北陸新幹線の整備方針が大きく進展。同16年末に北陸新幹線の富山・金沢間と福井駅部の新規着工が政府決定。同17年4月に福井駅部800m区間のみ先行認可・着工となった。この段階で新幹線は3階から2階構造に変更され、新幹線とえち鉄は単独高架化する方向となった。その後、えち鉄の高架化を進めるに当たり、新幹線金沢・敦賀間の着工方針が示されたことで、えち鉄の高

架位置・構造が定まり同24年12月にえち鉄単独高架方式として都市計画変更した。

高架化に当たっては、先行して完成した新幹線高架をえち鉄の仮線として利用することで（全国で初）、仮線用地が不要となった他、2箇所の踏切除却と交差道路整備を3年前倒して行うことができた。そして紆余曲折の結果、平成30年6月に無事高架完成・開業となった。以上のように、北陸新幹線の計画具体化に伴い高架方式の度重なる見直しを余儀なくされる中、多くの困難を乗り越えて柔軟に対応したことが評価され、第33回全国街路事業コンクール（令和3年6月）において北陸地方で初となる国土交通大臣賞を受賞した。

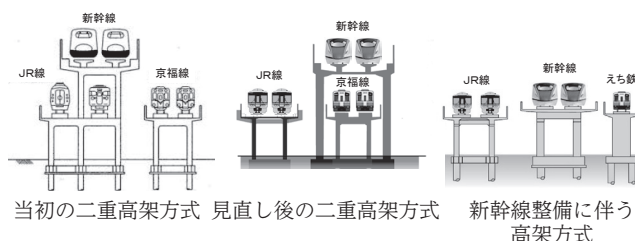


図-1 高架化方式の変遷

### 【まちづくりを進める上で心掛けていたこと】

- (1) ビックプロジェクトに携われる喜びと使命感を持ちながらモチベーションを上げる。「感謝」と「情熱」を忘れず。
- (2) 多くの関係者との信頼関係を築くため情報・意見交換の場を積極的に設け、何でも話しやすいリスペクトの精神で相手に寄り添う。
- (3) 県都の玄関口の都市改造の実現に向け、計画実行を貫く。「夢なき者に成功なし」



写真-2 国土交通大臣賞を受賞した  
「福井駅付近連続立体交差事業」

#### 3) 平成30年福井豪雪

平成30年2月5日から13日にかけて本県の嶺北地方を中心に短時間の強い降雪が継続し大雪となっ

た。福井市では「昭和56年豪雪」以来37年ぶりの記録的な積雪（最大積雪深147cm）となり越前市、大野市等でも観測史上最多の積雪を観測した。この大雪により北陸自動車道や中部縦貫自動車道が通行止めとなり、国道8号では最大で約1,500台の車両が長時間にわたり滞留、JRや地域鉄道・バスも運休、ガソリン・灯油等生活物資の一部不足等、県民生活に大きな影響を与えた。

当時私は、越前市、鯖江市、越前町、南越前町、池田町を所管する丹南土木事務所の所長として過去に経験のない道路除雪の対応に迫られた。

#### 【除雪対応状況】

- (1) 5日18時からの24時間で65cmという異常な降雪であったため、夜中から日中連続する除雪作業に伴い人出不足が生じた。このため、降雪が少ない嶺南地方の建設業会等に除雪応援を求め人海戦術で対応した。
- (2) 作業効率を高めるため、市町と連携し警察の協力のもと交差点毎に通行規制を行い集中かつ短時間で除雪を実施。さらに排雪場所の増設や開設時間の延長等を柔軟かつ迅速に実施した。

#### 4) 令和3年福井豪雪

今年1月7日から10日にかけて嶺北地方を中心に平成30年2月豪雪に匹敵する大雪を記録。特に福井市では2日間で約100cm、大野市では3日間で約140cmを記録。北陸自動車道では約1,600台の滞留、国道8号でも最大約15kmの渋滞が発生、JRや地域鉄道・バスも運休する等、3年前と同様記録的な大雪で地域活動に大きな支障が生じた。

私は、土木部長として災害対策本部長（知事）の指揮のもと、除雪による道路の早期開通や県民生活への影響を最小限にするための対応に迫られた。

#### 【除雪対応状況】

- (1) 3年前の大雪を踏まえ、広域応援（近畿地方整備局・日本建設業連合会等の除雪車）等による除雪体制の強化、除雪機械増強等ハード対策および交通規制を伴う集中除雪を実施したことにより、主要幹線道路や病院・物流拠点へのアクセス道路、バス路線等の除雪を早

期に完了できた。

- (2) 市町が管理する道路除雪支援のため、市町に県職員を派遣し除雪機械等の調整、交差点の除排雪等を行い県市町が連携して作業を進め、県民の日常生活を早期に回復できた。

#### 【職員等に対するケア】

- (1) 降雪量が多く期間も長かったため、睡眠不足等による職員の体調を常に気遣い、疲労困憊する職員に元気よく声掛け活気づけていた。
- (2) 現場で日夜作業を行っている建設業会の会長や責任者等に対し、直接私から電話を小まめにかけて「御礼」と「激励」の気持ちを伝えていた。
- (3) 心一つに、「One for all All for one」の精神で鼓舞し合っていた。「1人は皆のために、皆で1つの目的のために」



写真-3 令和3年1月大雪  
 (左) 自衛隊による車両救出 北陸自動車道  
 (右) 大雪による大渋滞 国道8号

### 3. おわりに

私が各職場で心掛け職員に伝えてきたことは、

- ①職場の風通しを良くし、いつでも誰とでもしっかりコミュニケーションを取れるような雰囲気づくりを率先して取り組む。
- ②明るく・元気に・前向きにそして笑顔で接する。
- ③先輩、同僚、後輩との信頼を大切に、早め早めの「ほう・れん・そう」を徹底する。

の3つである。

34年間の長きにわたり、貴重な経験と素晴らしい方々との出会いに恵まれ、充実した県庁生活を送ることができ心より感謝申し上げる。最後に、皆様のご活躍を祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。

#### 【著者紹介】 小川 俊昭（おがわ としあき）

昭和34年生まれ。昭和62年福井県庁入庁（土木職）。交通まちづくり課参事（地域鉄道支援）、都市計画課長、土木部技幹（都市計画）、丹南土木事務所長、福井土木事務所長、土木部理事等を歴任。